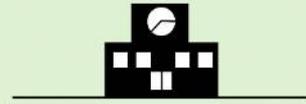


令和7年1月28日
板橋区教育委員会

いたばし地域クラブ



板橋区の中学校部活動改革

- 1 板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030の策定
- 2 行政による地域クラブの推進(いたばし地域クラブについて)
- 3 令和7年度からの運動部活動の地域移行

1

本日はお忙しい中、板橋区の中学校部活動改革の保護者説明会にご参加いただきまして、ありがとうございます。

本日は、令和7年4月1日からの運動部活動の地域移行に関する重要な事項も含みまして、皆様にご案内をいたしたく説明会を開催いたします。

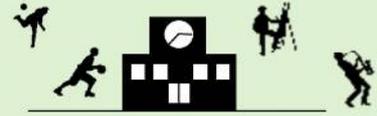
大きく3つのお話しをしたいと思います。

1つ目は令和6年3月に策定いたしました「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030」について。

2つ目は、その中でも重要な行政による地域クラブの推進ということで、現在もすでに行われております「いたばし地域クラブ」について。

3つ目は、令和7年度からの運動部活動の地域移行についてお話をいたします。

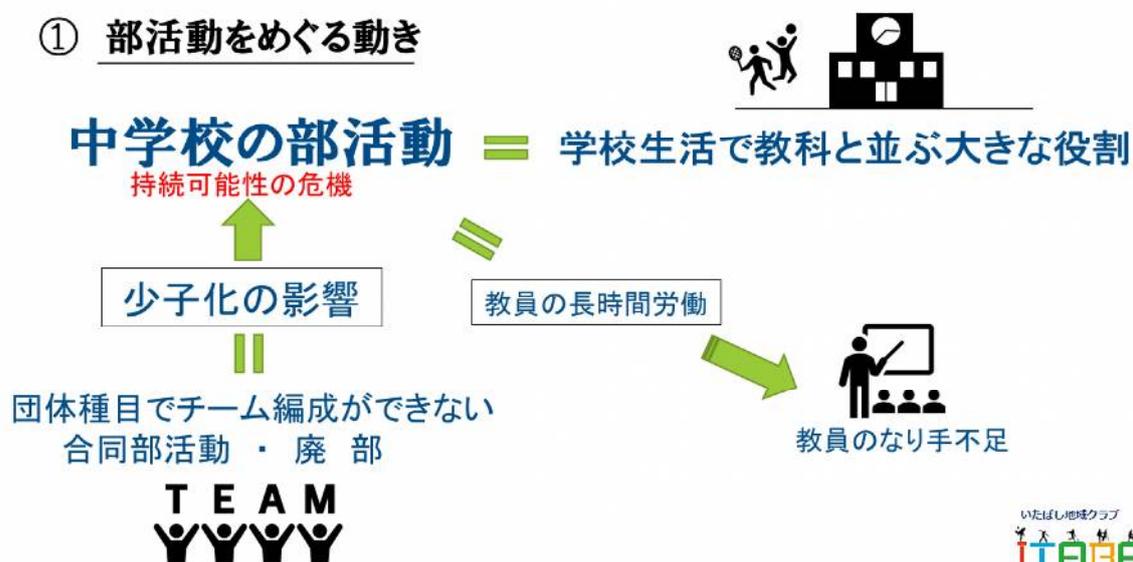
1 板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030の策定



まず学校部活動の「地域移行」ということが、声高に言われ始めております。皆様も、もうすでにこの言葉は何回か聞いたことがあるかと思います。板橋区でも、令和3年の秋頃からより具体的に検討が始まりまして、今日までビジョンを策定したり、またさらにそのビジョンに基づいて様々な事業を展開したりとしていくという中で今日に至っております。

(1) 部活動改革の背景

① 部活動をめぐる動き



最初に、部活動改革の背景ということで、①部活動をめぐる動きについてです。大きくは中学校部活動の持続可能性の危機ということがあります。理由はいくつかあると思いますけれども、少子化の影響であったり、または先生の長時間労働ということもだいぶニュースでも言われております。そういう中で、団体種目でチームが編成できないとか、既に合同部活動で活動しないと人数が足りないところや、そもそも規定の人数に達しないところで試合ができないといったことも散見されております。中学校部活動は、学校生活において大きな役割を果たしてきたものではあります。その部活動がこのままの形では続けられないといったことが背景となって、改革が進んでいるという状況でございます。

(1) 部活動改革の背景

② 国・東京都の検討経緯

平成30年3月 平成30年12月	スポーツ庁 文化庁	「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」 「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」
令和2年9月	スポーツ庁	「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」
令和3年10月 令和4年2月	スポーツ庁 文化庁	「運動部活動の地域移行に関する検討会議」設置 「文化部活動の地域移行に関する検討会議」設置
令和4年6月 令和4年8月	スポーツ庁 文化庁	「運動部活動の地域移行に関する検討会議 提言」 「文化部活動の地域移行に関する検討会議 提言」
令和4年12月	スポーツ庁 文化庁	「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」
令和5年3月	東京都	「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」 「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」



少しだけ国や東京都の検討経緯を振り返ってみますと、これよりも以前からずっと検討されてきましたが、大きな動きとしては平成30年3月に、スポーツ庁及び文化庁でそれぞれ運動部活動・文化部活動の在り方に関する総合的なガイドラインが定まってきたり、部活動改革について検討されたり、地域移行に関する検討会議が設置されています。

その中でも、大きな動きとしましては、この令和4年6月運動部活動の地域移行に関する検討会議提言がスポーツ庁に提出され、より具体的な形で示されたことで全国的に中学校部活動の地域移行というものの議論が深まってきたという状況がございます。

(2) 部活動の地域移行とは

① 「地域」とは

部活動の地域移行を考える際の“地域”は、学校の外にある、あらゆる人や団体などを指し、学校以外という意味で捉える



② 「移行」とは

これまで学校で行われていた部活動が、学校活動ではなくなり、上記①の地域が運営母体となって、行われるようになることを指す
学校部活動との区別をつけるため、地域移行によって行われる活動を広義的に「地域クラブ活動」と言う



次に、そもそも部活動の地域移行とはどういう意味なのか、どういうものなのかこれについて少しだけ触れていきたいと思います。

①この地域移行というものの地域とは何かです。部活動の地域移行を考える際の地域というものは、学校の外にある、あらゆる人や団体などをさしており、学校以外という意味で捉えていただきたいと思います。

地域というと、どうしても地域にいらっしゃる方々を直接的にイメージしてしまうのですが、そこだけに担っていただく、もしくは負担を強いるということではなく、この右側に各種運営団体、実施主体、例を載せています。

スポーツ協会、文化芸術団体、総合型地域スポーツクラブ、大学、スポーツ少年団、プロチーム、民間事業者などがあります。

その中には、市区町村も入っており、こういった地域での多様な活動、様々な主体が受け皿となるそういうことを総合的に踏まえて地域と呼んでおります。

さらに、②移行という言葉の意味についてです。

これまで学校で行われていた部活動が学校活動ではなくなり、①の地域が運営母体となって行われるようになることを指します。

学校部活動との区別をつけるため、地域移行によって行われる活動を広義的には地域クラブ活動と呼んでおります。

以上が「地域移行」の一般的な言葉の意味になります。

(2) 部活動の地域移行とは

③ 部活動地域移行の目的

生徒の成長機会の確保

少子化の影響により学校単位での部活動が行き詰まり、指導教員の専門性や業務体制の限界から、例えば学校部活動が無くなっても生徒のスポーツ、文化芸術活動を通じた成長機会を確保すること

教育の質の向上

教員が長時間労働から解放され、心身の健康を保ちつつ、一人一人の生徒へのきめ細かい対応に専念できる環境を整えること

生涯スポーツ社会・生涯学習社会の進展

学校単位によらない地域クラブ活動が、生涯に渡りスポーツ、文化芸術活動を続けられる下地となり、人生100年時代を生きる生徒の社会生活をより豊かにする「生涯スポーツ社会」「生涯学習社会」の進展を図ること



続きまして（2）部活動の地域移行とは、③部活動地域行の目的についてです。大きくは3つございます。

1つ目は「生徒の成長機会の確保」です。

少子化の影響により学校単位での部活動が行き詰まり、指導教員の専門性や業務体制の限界から、例えば学校部活動がなくなっても生徒のスポーツ、文化芸術活動を通じた成長機会を確保すること、これが1つ重要な目的になります。

部活動が持続可能性のない制度になってきているのであれば、それをそのまま黙って見ていますと、いつかある日突然に子供たちはスポーツ文化芸術活動の場を失ってしまいます。

そうはならないよう成長機会を確保し続けるということは、大事な目的になります。

2つ目は「教育の質の向上」です。

教員が長時間労働から解放され、心身の健康を保ちつつ、一人一人の生徒への決め細かい対応に専念できる環境を整えることは大変重要なことです。

単純に先生が大変だからということではなく、先生が本来業務に集中できなくなる、もしくはもっと大変な状況ですと、今ニュースでも取り上げられている教員採用の倍率の問題で、先生のなり手が不足しているなどの状況があります。そんなような状況下で、先生には学校で頑張っていたただかなければいけない時、そういったことに対応できる環境を整えなければいけないという意味では、部活動を地域移行をして先生の手が部活動から離れるということは、この教育の質の向上

に直結する効果が出るものの1つと考えております。

3つ目は、「生涯スポーツ社会、生涯学習社会の進展」です。

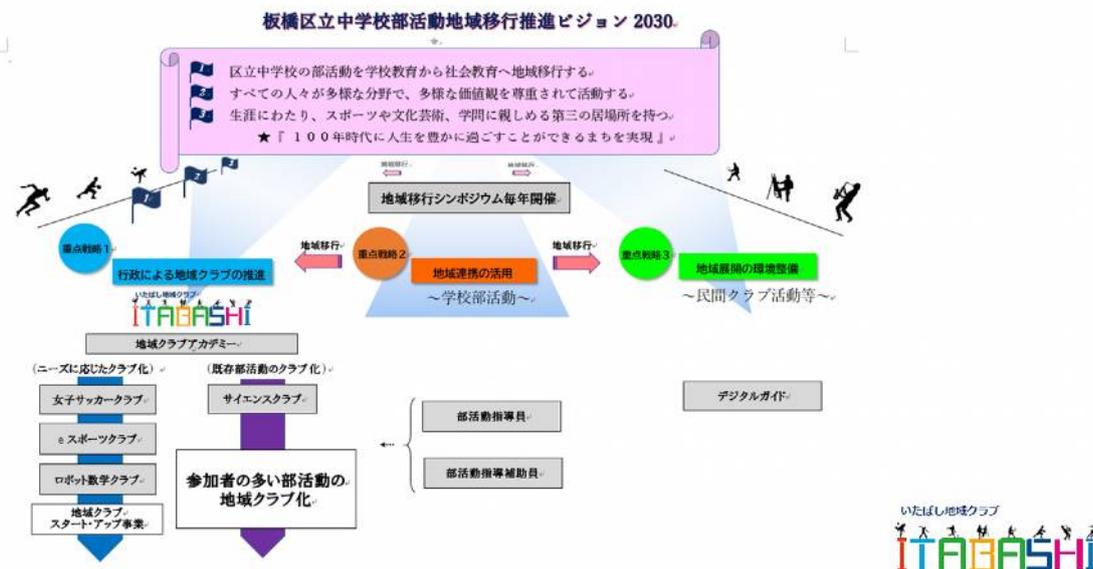
学校単位によらない地域クラブ活動が、生涯に渡りスポーツ、文化芸術活動が続けられる下地となり、人生100年時代を生きる生徒の社会生活をより豊かにする生涯スポーツ社会、生涯学習社会の進展を図ることが実現できると考えております。

現行のスポーツや文化芸術活動を学校に頼った形の部活動は卒業とともに、いわゆる引退とよく言われますが、都度1回機会を失って、またさらに違う機会を見つけて、初めて続けられるという点では生涯にわたって続けられるシステムかという、必ずしもそうではないと思っております。

そういった中で世界を見渡すと、学校単位でというよりは、いわゆる広い意味での地域の中で、こういったスポーツ、文化芸術活動は展開されています。

我々もそういった形に移行することで、この人生100年時代においては、新しい機会やシステム、考え方というものが大事かと思い、この部活動の地域移行を進めていく目的として考えております。

(3) めざす将来像と重点戦略



1 板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030の策定

次に、板橋区の地域移行推進ビジョン2030に書いてある全体の体系図についてです。

上のピンクの部分は、板橋区でイメージしております将来像です。区立中学校の部活動を学校教育から社会教育へ地域移行するという、そして全ての人々が多様な分野で、多様な価値観を尊重されて活動するという、そして生涯に渡りスポーツや文化芸術、学習に親しめる第三の居場所を持つといったことが将来実現できると、100年時代に人生を豊かに過ごすことができるまちを実現できるのではないかと理想像を掲げております。

こちらの理想像に向かってどう板橋区として前に進んでいくかというものがこの中段に書かれているものです。

板橋区としては、大きく3つの重点戦略を掲げています。

1番左側、水色の部分の重点戦略1が、板橋区独自のやり方ですが、「行政による地域クラブの推進」ということで「いたばし地域クラブ」を作って前に進んでおります。

国の設計図では、この受け皿となる地域クラブは民間のクラブをイメージされています。

板橋区は、一足飛びに地域の方々に全ての中学生を受け入れてもらうということは難しいと考え、まずは行政が責任を持ってしっかりとその受け皿を作っていま

す。

そして、次のステージで民間の方々がどんどんそういった余力ができてくれば、地域に移行していくようなイメージも込めて、まず最初は行政による地域クラブの推進を他の自治体とは一線を画した形で板橋区が独自に実施しております。

2つ目は、真ん中の重点戦略2「地域連携の活用」です。地域連携という言葉は、地域移行と似た言葉で、見た目も同じですが意味は大きく変わります。

地域移行は、学校から切り離されて広い意味での地域がクラブ活動を担うということですが、地域連携は、そのまま学校部活動であり、顧問の先生から民間の方に指導者が変わるかたちのことを言います。

また、見た目は民間の指導者が指導するという点では地域移行と同じですが、その責任の所在が大きく変わります。

学校部活動である以上、責任は学校が負うことになり、性質としては学校部活動のまま、しかし先生の手を離れるという点では先ほどの目的の1つの教員の長時間労働に対する効果というものは上がります。

ただし将来的には地域移行をめざしますので、あくまで過渡期としての手立てとして地域連携を活用していく、そんな意味で、この将来のピンクに向かって三角形がだんだんとしぼんでいます、そんなイメージで重点戦略2の地域連携の活用というものを図っていきたいと思っています。

そして、3つ目が重点戦略3「地域展開の環境整備」です。

こちらが国がめざしております民間による地域クラブに受け皿となっていただくことを推進していくということになります・こちらも徐々にではありますが、推進していきたいと思っています。

この3つを通じて、将来、地域移行、そしてその先にある生涯スポーツ社会、生涯学習社会の実現をめざしていきたいと思っています。

(4) 成果のイメージ

生徒視点のイメージ

放課後や週末に、家庭や学校とは別の居場所として、スポーツや文化芸術、学問に親しむことができる活動の場を見つけることができます。

そこで、好きな数だけ、自分に合った方向性で、成長する機会を誰もが得ながら希望する種目・分野の活動に取り組みます。

その取組は、人とのつながりを含めて生涯にわたり、続けることができるものとなります。

教員視点のイメージ

学校部活動での指導がなくなり、自身の人生をより豊かにするような週末の過ごし方ができるようになります。

そのため、自身の選択で、地域クラブ活動に参加することも可能です。

多様な知見と心のゆとりを得られ、充実した気力をもって、生徒一人ひとりに向き合い、学校生活を楽しみに満ちたものにしていきます。



次に、成果のイメージですが、部活動地域移行推進ビジョン2030に生徒視点、教員視点でイメージを詳しく記述してあります。

2 行政による地域クラブの推進(いたばし地域クラブについて)

中学校部活動 × SDGs 持続可能な新しい活動へ



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



いたばし地域クラブ
ITABASHI

9

続きまして2つ目の話でございます。行政による地域クラブの推進です。
先ほど重点戦略を3つお話し中の重点戦略1行政による地域クラブの推進という
ことで行っております「いたばし地域クラブ」について説明したいと思います。

(1) いたばし地域クラブとは

いたばし地域クラブは学校部活動に替わる、放課後や土日の新しい活動スタイルとして、板橋区教育委員会が立ち上げた地域クラブです。

「学校単位ではなく」、「学校部活動にはなく」、「大人の人についていくのではなく」放課後にやりたいことや活動内容を主体的に考え、社会的自立を果たすまでに必要となる成長機会を自己決定していけるようになることをめざしています。

「一人ひとりが主役」「みんな成長しよう」を合言葉にした活動が、令和5年度から始まっています。



女子サッカー



eスポーツ



ロボット数学



サイエンス

実施場所、活動日、指導者などはクラブごとに異なる



2 行政による地域クラブの推進(いたばし地域クラブについて)

10

いたばし地域クラブは、学校部活動に変わる放課後や土日の新しい活動スタイルとして、板橋区教育委員会が立ち上げた地域クラブです。

学校単位ではなく、学校部活動にはなく、大人の人についていくのではなく、放課後にやりたいことや活動内容を主体的に考え、社会的自立を果たすまでに必要となる成長機会を自己決定していけるようになることをめざしています。

より今まで以上に子どもたちに主体的に参加してもらって、自分たちで考えて、より様々な活動機会を得てほしいなというイメージで立ち上げていきたいということで、既に女子サッカー、eスポーツ、ロボット数学、サイエンスといったものが活動を始めております。

ちなみにこれらの種目は現行部活動にはない種目・分野ということですが、参加者を募って活動しております。

女子サッカークラブ

活動初日の様子



WEリーグカップ観戦



体育館での練習



交流大会に参加



いたばし地域クラブ

2 行政による地域クラブの推進(いたばし地域クラブについて)

11

いたばし地域クラブ
ITABASHI

女子サッカークラブは、日曜日に中学校の校庭で活動しています。暑い時期には体育館で活動したり、時にはプロの公式戦を見に行ったり、交流大会にも参加したりして、楽しそうに活動しています。

eスポーツクラブ

活動の様子



クラブ内大会



活動の様子



eスポーツクラブは、区内にキャンパスを構えるクラーク国際記念高校で実施しています。

「リーグオブジェンド」という5人1チームで対戦するタイトルに取り組んでいます。

こちらも、元プロの講師のもと、チームでたくさんコミュニケーションをとり、楽しみながら取り組んでいます。クラブ内大会では、クラーク高校のeスポーツコースで大会運営などの勉強をした高校生が企画・運営をしてくれました。普段の活動内でも、高校生が自主的に参加してくれており、中学生にアドバイスしてくれています。

ロボット数学クラブ

活動の様子



活動の様子



企業訪問

いたばし地域クラブ

ITABASHI

2 行政による地域クラブの推進(いたばし地域クラブについて)

13

ロボット数学クラブは、数学を勉強してロボットを実際に動かしていくことや、企業訪問といった活動となります。主に赤塚第二中学校が会場になっています。

サイエンスクラブ



いたばし地域クラブ

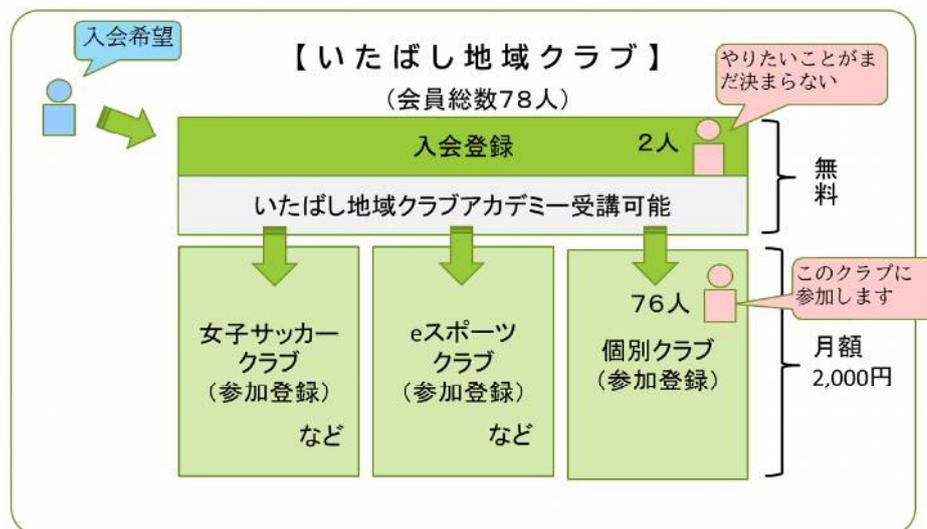
2 行政による地域クラブの推進(いたばし地域クラブについて)

14



サイエンスクラブは、教育科学館、もしくは志村第四中学校を会場として、皆さんそれぞれが興味のある分野を、時には一緒に、時には個人研究のような形で1年を通じて活動しています。

(2) いたばし地域クラブのしくみ



2 行政による地域クラブの推進(いたばし地域クラブについて)

15

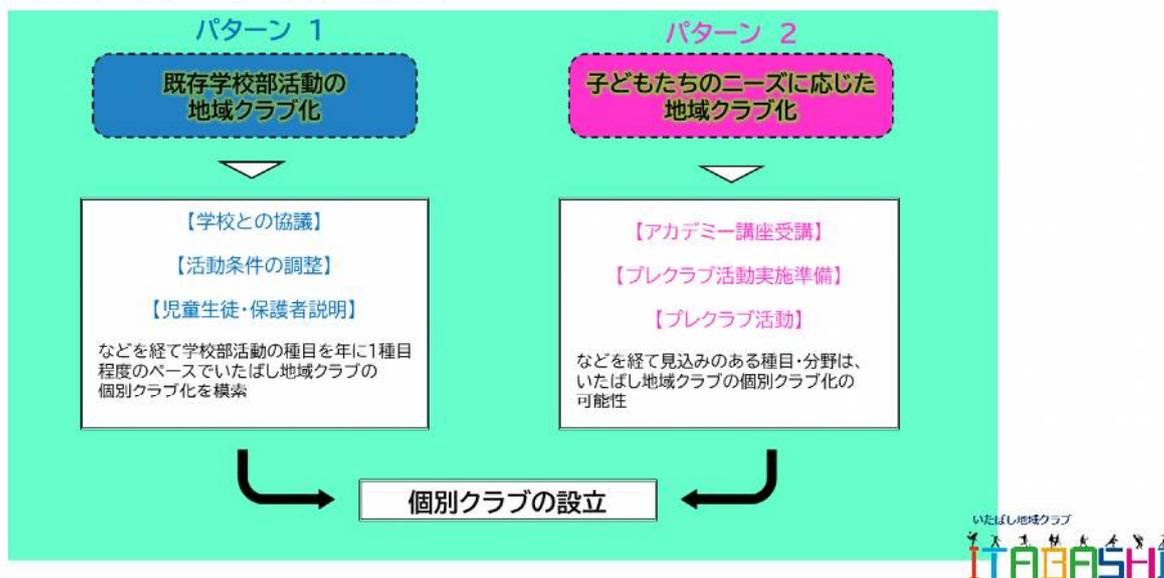
そのいたばし地域クラブの仕組みを簡単に申し上げますと、2階建て構造になっておりまして、入会を希望される方は、まずいたばし地域クラブに入ってもらいます。

上の部分は、入会登録ということでこちらに会員として登録するだけでは無料になっており、まだやることが決まっていなような子は、とりあえずは登録してもらって、様々なニュースとかお知らせを受け取りながら、やりたいことを考えてもらいます。

また、いたばし地域クラブアカデミー講座を無料で受けられるようになっております。

やりたいことを見つけるための様々な支援のメニューを用意しており、今後それが充実して実施されますので、そういったものを受講しながら自分のやりたいことを見つけてもらえばいいですし、もう既にやること、やりたいことが決まっている生徒は、先ほどご紹介しましたような個別のクラブにさらに登録をもらって、実際に活動してもらい、その際には月額2,000円という活動費はかかりますが、それぞれの活動に参加してもらおう仕組みになっております。

(3) 個別クラブの設立パターン



2 行政による地域クラブの推進(いたばし地域クラブについて)

16

そして、今後の個別クラブをどうやって設立していくかについてです。今はまだ4クラブで、さらにこの後3つ目のお話として7年度4月からの新しく始めたいと思っているクラブをご紹介します。それ以外にも、これからもどんどん増やしていきたいと思っておりますが、大きくは2つのパターンで種目を増やしていきたいと考えています。

左側のパターン1という青色の部分、既存学校部活動をこれからは地域クラブ化していきたいと思っております。学校との協議や活動条件の調整をした上で皆様への説明などを経て、できましたら年に1種目程度のペースでいたばし地域クラブに置き換えていければと思っております。これが1つ目のルートです。

もう1つのルートは学校部活動にはないような、新しい活動などをイメージして、子供たちのニーズに応じた地域クラブ化ということです。先ほどご紹介したアカデミー講座でも、そういったクラブを立ち上げるためのスタートアップ講座みたいなものを昨年12月に実施しましたが、それを受講していただいて、自分たちのやりたいことを見つけ、それを形にしていくということで、こちらはどちらかというと大学のサークルのようなイメージです。子供たちが中心となって設立から関わっていただき、徐々に仲間を募って新しい種目も増やしていけたらというイメージでおります。このような2つのルートを使っていたばし地域クラブを増やしていきたいイメー

ジを持っております。

3 令和7年度からの運動部活動の地域移行



最後に、この令和7年4月1日からの運動部活動の地域移行について、お話をさせていただきたいと思います。

(1) 区立中学校運動部活動の規模



種 目	サッカー	バスケットボール	バレーボール	ソフトテニス	卓球	バドミントン	野球	剣道	陸上
区内部員数 (男女合計)	417人	950人	433人	824人	301人	954人	380人	123人	416人
学校数	20校	22校	13校	19校	8校	20校	19校	6校	14校

(データ:令和6年度)



こちらは区立中学校の運動部活動の規模でございます。
主な運動種目と部員数、その種目の部活動がある学校数をこちらの表にまとめました。

(2) 部活動地域移行の原点課題

少子化の影響による将来的な生徒数の減少

教員の長時間労働



学校部活動の
持続可能性低下

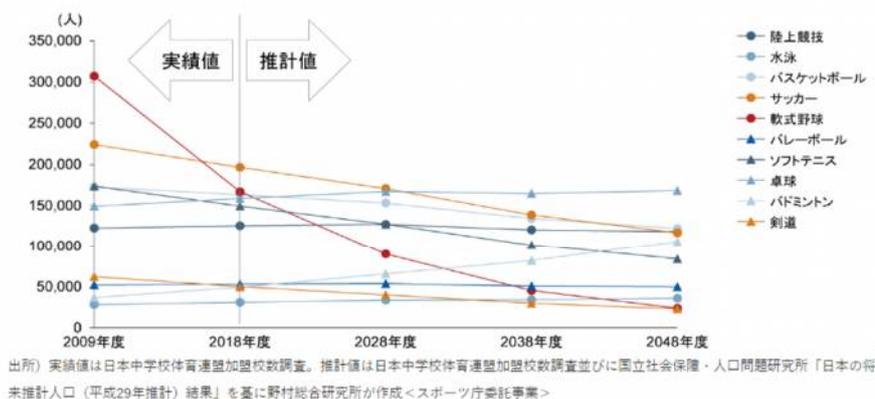


次に、おさらいですが、部活動地域移行の原点課題ですが、少子化の影響による将来的な生徒数の減少や教員の長時間労働の中で、持続可能性が低下している。こういった課題をどう解決していくかというところになります。

(3) 中体連 | 男子 競技別加盟人数推計

2009-2018年度において中体連加盟総人数がピークを迎えた時点(2009年度)からの変化の傾向が各競技において今後も続くことと仮定し、2048年度までの人数を推計。その人数を元に全競技の中でその競技が占める割合を計算し、上記で推計した全体の人数にかけ合わせることで推計した。

● 2018年度における加盟人数上位10競技を表示させている。



次に、中学校体育連盟のデータの1つになりますが、男子の競技別加盟人数推計というのがありまして、2018年度のところまでが実績値、そこから先は推計値になっております。

先ほどご紹介しました運動部活動の主な種目は、どれも少子化の影響を受け、徐々に右肩下がりのグラフで推計値が推移しています。

要するに、だんだん競技人口が減っていきます、クラブの人数が減っていきますといったデータになります。

その中で1つだけ大きく右肩下がりとなっている種目があります。

それが軟式野球です。理由は定かではないですが、そのようなデータがあります。

(4) 区立中学校野球部の現況

学校名	設置状況	部員数									合計		
		7			8			9					
		男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計			
板橋第一中学校	設置	2	0	2	3	0	3	6	0	6	11	0	11
板橋第二中学校	設置	5	0	5	8	0	8	5	0	5	18	0	18
板橋第三中学校	設置	5	0	5	10	0	10	8	0	8	23	0	23
板橋第五中学校	設置	7	0	7	2	0	2	2	1	3	11	1	12
加賀中学校	設置	7	0	7	8	0	8	9	0	9	24	0	24
志村第一中学校	設置	11	0	11	9	0	9	5	1	6	25	1	26
志村第二中学校	設置	3	0	3	6	0	6	3	0	3	12	0	12
志村第三中学校	設置	7	0	7	8	0	8	11	0	11	26	0	26
志村第四中学校	R6年度未廃部												
志村第五中学校	設置なし												
西台中学校	設置	11	0	11	10	0	10	7	1	8	28	1	29
中台中学校	設置	0	0	0	11	0	11	7	0	7	18	0	18
上板橋第一中学校	設置なし												
上板橋第二中学校	設置	10	0	10	7	0	7	1	0	1	18	0	18
上板橋第三中学校	設置	5	2	7	6	5	11	4	2	6	15	9	24
桜川中学校	設置	8	0	8	10	0	10	5	1	6	23	1	24
赤塚第一中学校	設置	0	0	0	7	0	7	1	0	1	8	0	8
赤塚第二中学校	設置	9	1	10	11	0	11	1	3	4	21	4	25
赤塚第三中学校	設置	17	0	17	2	0	2	11	0	11	30	0	30
高島第一中学校	設置	3	0	3	12	0	12	7	0	7	22	0	22
高島第二中学校	設置	4	0	4	2	0	2	2	0	2	8	0	8
高島第三中学校	設置	16	0	16	5	0	5	1	0	1	22	0	22



区立中学校野球部の現状ですが、現在19校の中学校に野球部があります。グレーは、既に野球部がなくなってしまったところ、黄色は9人の人数が揃わず、試合への参加がなかなか難しいというところです。少子化の影響により、野球は1番最初に減っていく可能性があるというようなことが、板橋区の中でも見えてきているという状況があります。

(5) 令和7年度から地域移行する運動部活動



軟式野球部



そういった中で、この令和7年度から地域移行する運動部活動について、板橋区としましては、軟式野球部を地域移行したいと考えています。

(6) 軟式野球部の地域移行とは

- ① 令和7年4月1日にいたばし地域クラブに野球クラブを新設
- ② 同日で学校部活動の軟式野球部を全区立中学校で廃部
- ③ 可能な限りこれまでと変わらない形でスタート



軟式野球部の地域移行ということの意味ですが、まず細かく分けていきますと、令和7年4月1日に先ほどご案内しておりました、いたばし地域クラブに野球クラブを新設いたします。
その上で現行の学校部活動の軟式野球部というのは全区立中学校で同時になくなります。
ただし、可能な限りこれまでと変わらない形でスタートすることを踏まえて、軟式野球部の地域移行というものを考えました。

(7) 「可能な限り変わらないスタート」の内容例

項目	学校部活動	野球クラブ
名称	〇〇中学校野球部	〇〇野球クラブ(中学校名から「中学校」を無くしたもの)
ユニフォーム	現在使用するユニフォーム	野球部と同じものを使用(将来的には適切なタイミングでデザイン新調)
指導者	顧問教員	顧問教員の8割強が指導を継続予定
活動場所	校庭等	部活動時と変わらず
活動日時	平日週4日土日いずれかの週11時間(部活動ガイドランに準拠)	部活動時と変わらず
費用負担	部費(学校により様々)と私物を負担	いたばし地域クラブ月額会費2,000円と私物を負担 (月額会費は令和7年8月まで無料。9月から令和8年3月までは5割減額の月額1,000円)
メリットの例	9人を割ると公式戦に出場できない	公式戦に出場できるよう教育委員会がチームを編成

名称としましては、「〇〇中学校野球部」は「〇〇野球クラブ」というような形のチーム名にすることで、チーム名が限りなく変わらない形にします。

ユニフォームなども現在使用しているユニフォームがあるかと思いますが、同じものを使用していきます。

もちろん将来的に、デザインの新調みたいなことはこれまでの部活動と同じようにあるかもしれませんが、少なくとも当面はユニフォームも今と変わらずと考えています。

さらに、指導者ですが、現在、顧問は教員がやっていたと思っています。これについては、この1年間、学校と協議を重ね、現在の野球部の先生のうち8割強の先生が、学校活動ではなくてクラブ活動になるということで、兼業兼職制度というものを使う必要がありますが、その制度を使って指導を継続したいと言っていておられます。8割強の先生は異動などの事情が生じなければ、継続して指導者になってくれるという形になります。

次に、活動場所も校庭とこれまでと変わらない同じ場所で、活動日時もこれまで行ってきた回数、時間と全く変わらずにやっていくということになります。

次に、費用負担ですが、現在も学校によって額の違いはありますが、部費と私物を負担して活動していただいていたと思います。

これについてもこの部費の部分がいたばし地域クラブ会費に置き換わるというこ

とで、クラブ会費と私物を負担という構造は変わりません。

さらに、4月1日からのスタートになりますので、経過措置ということを考えております。

月額会費を令和7年8月まで無料。これは、最高学年の生徒がいわゆる引退をする8月までは、全学年の参加者が無料ということになります。

さらに、秋から新チームに変わるタイミングで、令和8年の3月まで半額の月額1,000円ということになります。

そして、1年後の令和8年4月からは、月額2,000円で展開していきたいと考えています。

次に、地域クラブ化されたメリットの例ということを少しだけ触れたいと思います。

例えば現在9人未満で公式戦に出場できなという状況がありますが、地域クラブ化するにあたって教育委員会の方でしっかりとチーム編成を考え、そういったチームが出ないような形にしっかりと整理していきたいと思います。

ということで、場所も時間も、また8割強の先生の指導者も変わらなく、ユニフォームも変わらない、現在出場している大会も全く変わらず同じように出られるというような状況の中で、性質が学校部活動からいたばし地域クラブというクラブ活動に変わるという中で、スタートを切っていきたいと考えています。

(8) そのほかのメリット

「一人一人が主人公」を合言葉に 全生徒が野球を通じて成長する機会を増やす

リーガ アグレシーバ LIGA Agresiva と **いたばし地域クラブ** との連携

- 1 リーグ戦形式の一部導入による全選手の出場機会の増加
- 2 試合後のアフターマッチファンクション実施による選手が主体的に考える野球の探求
- 3 選手向け講習を通じて自ら考える学びの場を提供
- 4 学び続ける指導者のための講習を通じた、選手の未来にフォーカスした指導の確立

LIGA Agresiva (リーガ・アグレシーバ) とは

高校野球において、甲子園等のトーナメント大会とは別に、全国各地で行われている「選手たちの未来にフォーカスしたリーグ戦形式の取組」。
同時に、リーグ戦を行うこと自体を目的とせず、リーグ戦を通じて、選手の成長や指導者の指導力向上を図ることで、日本における野球及びスポーツの社会的価値の向上をめざしている。

野球(スポーツ)では、両チームが全力で戦うことで、勝ちと負けの結果が表れます。喜びと悔しさがチームと選手の成長を促します。特に学童期においては、仲間との交流を通じた人間的な成長を重視することが、上達にも効果的であると考えます。共に戦った仲間として、お互いを称え合い、指摘・助言をすることで双方のチーム、選手の意識向上や仲間づくりにも有益であり、何よりもスポーツマンシップを理解することが青少年少女の健全育成に有効と考えアフターマッチファンクションを推進します。

(全日本軟式野球連盟HPよりアフターマッチファンクションの推進)

いたばし地域クラブ

さらにもう少しだけメリット部分についてお話をしたいと思います。
冒頭で学校部活動とSDGsを掛け合わせてという話をしました。
誰一人取り残されることのない仕組として整理をしていきたいと思っています。
さらに、「一人ひとりが主人公」を合言葉に、全生徒が野球を通じて成長する機会を増やす、そのような形にしていきたいと思っています。

少し耳慣れない言葉ですが、「LIGA Agresiva (リーガ・アグレシーバ)」といたばし地域クラブとの連携ということで、このリーガ・アグレシーバというものは、左の下に書いていますが、主に高校野球において今取り組まれている新しい動きで、甲子園等のトーナメント大会とは別に、全国各地で行われている選手たちの未来にフォーカスしたリーグ戦形式の取組です。

同時に、リーグ戦を行うこと自体を目的としないで、リーグ戦を通じて選手の成長や指導者の指導力向上を図ることで、スポーツの社会的価値の向上をめざして取り組まれているものです。

この連携を図ることで、誰一人取り残されることのない新しい形の野球の機会というものを子どもたちに提供していきたいと思っています。

具体的には4つ。

1つ目は、リーグ戦形式の一部導入による全選手の出場機会の増加。

これまでと変わらない形でトーナメント大会は出られます。その上で空き時間を使って徐々にではありますが、リーグ戦形式の取組も増やしていくことで、例え

ば今、レギュラーとして出られないような子どもたちにも野球をプレイする機会をより増やしていきたいという取組を、新たに取り組んでいきたいと思っています。

2つ目は、試合後のアフターマッチファンクションの実施による、選手が主体的に考える野球の探求。

アフターマッチファンクションとは、元々はラグビー界の文化のようなのですが、試合が終わると、対戦したチーム同士の選手が輪を作って、試合後に色々と話をするそうです。

お互いの健闘を称えあったり、練習方法を聞いてみたり、どんなことに興味を持っているのかなど、お互いに試合相手を敵として捉えるのではなく、同じスポーツをする仲間として捉えるような文化があるのですが、それが野球界でも浸透してきており、右側下の全日本軟式野球連盟の全国大会などでも、このアフターマッチファンクションというものが青少年大会で実践されてきています。このいたばし地域クラブでもそういった取組を始めて、板橋区で野球をやっている人たちが仲間になれるような取組も、徐々に展開していきたいと思っています。

3つ目は、選手向け講習を通じて自ら考える学びの場を提供。

子どもたちに主体的に考えてほしいという話を冒頭でいたしました。

そうなってもらうためにも、子どもたちに向けた様々な講習の機会も提供したいと思っています。

この高校野球会の取組、リーガアグレシーバでは実際に選手にそういったことがオンライン上で提供されております。

それを板橋区の中学生版に落とし込んでもらって、選手に年間を通じて提供していきたいと思います。

それを通じて様々なことを考えて、自分でプレイしたり、練習したり、また野球について考えるようなきっかけにしてもらいたいと思っています。

最後に、4つ目は、これがもしかすると1番大事なことなのかなとも思っています。

また、リーガ・アグレシーバの設立された最大の理由は、まさにこのようなのですが、学び続ける指導者のための講習を通じた、選手の未来にフォーカスした指導の確立。

リーガ・アグレシーバでは、「学ぶことをやめた時、教えることをやめなければならない」という合言葉のもとに、関係する指導者の方々は、様々な講習や研修を通じて、1年中勉強しているようです。

そのような講習の機会を、このいたばし地域クラブに関わる指導者にも提供していきたいと思います。

そのような中で選手の未来にフォーカスした指導を確立していき、これまでとはまた一味違ったプラスアルファの野球というものを、いたばし地域クラブで展開していきたいと思っています。

(9) 今後のスケジュール

日時	説明会	対象・内容	方法・会場
令和7年1月28日 令和7年2月21日	板橋区の中学校部活動改革	区立小中学校保護者及び児童生徒 (同内容の説明会を二度実施)	オンライン開催
令和7年3月	チーム説明会	各野球クラブへの参加を検討している児童生徒及び保護者	対面開催 各中学校会場

🕒 令和7年4月1日 **いたばし地域クラブ 野球クラブ** START 🕒



最後に、今後のスケジュールです。

今回の説明会を再度2月21日にも同じ内容になりますが開催します。

本日、ご覧になれなかった方や見逃した方、聞き逃した方には再度そういったことを2月21日に行いたいと思います。

その上で、さらに今回野球は特段取り組まないという方は、このような流れが板橋区にあるんだなということでご理解をいただければと思いますが、実際に野球をやられているようなお子さん、ご家庭の方々については、また3月にさらに詳しい、細かいことも含めた説明会を各中学校を会場に対面で実施していきたいと考えています。

日程の調整は、少しだけお時間をいただきます、よろしく願いいたします。

このような形で、4月1日からいたばし地域クラブの野球クラブをスタートしたいと考えております。

これは令和7年度からの学校部活動の変化ということで、今後、板橋区としては学校部活動を地域クラブ化することをより加速させて、地域移行を推進していきたいと考えています。

イメージとしましては、このような形で1年に1種目ずつ地域クラブ化して、前に進めていければと考えています。

説明長くなりましたが、本日お伝えする内容は以上となります。